

次の問いに答えなさい。(二十点)

問 次の□の漢字は複数の読みを持っています。それぞれ□^A・□^Bの正しい読みを答えなさい。

- ① かつては若者に□^A 人気^Aのあった遊園地も、いまは□^B 人気^Bのないさびれた場所となっている。
- ② ごみの□^A 分別^Aがきちんとできるような、良いことと悪いことの□^B 分別^Bがつく人になりましょう。
- ③ 自分では□^A 上手^Aに攻めたつもりだったが、相手のほうが一枚□^B 上手^Bだった。

問 次の熟語と同じ構成の熟語を、次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使ってはいけません。

- ④ 人造 ⑤ 加熱 ⑥ 功罪 ⑦ 花束 ⑧ 学習
- ア 取得 イ 海底 ウ 読書 エ 年少 オ 賛否

問 次の俳句の季節を春・夏・秋・冬のいずれかでそれぞれ答えなさい。

- ⑨ 小春日に折鶴^{おろづ}とんでみたくなる 木村春子
- ⑩ 菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村^{よしゃぶそん}
- ⑪ 子の描^{えが}く傘^{かさ}があかるい梅雨の入り 上野和江

問 次の□に漢字一字の生き物の名をそれぞれ入れ、以下のような意味の慣用句・ことわざになるように完成させなさい。

- ⑫ □が合う ・ ・ ・ 気が合うこと
- ⑬ □も食わない ・ ・ ・ だれも相手にしないこと
- ⑭ □の歩み ・ ・ ・ 進み具合がおそいことのととえ

問 次の二つの慣用句の□には漢字一字がそれぞれ入ります。「例」にならって、その二つの漢字を組み合わせることができる一字の漢字を答えなさい。

〔例〕 □月とすっぽん □日^目を見る □答^明

- ⑮ □壁^{かべ}に□あり 笑う□□には福来る
- ⑯ □の上にも三年 捕らぬ狸^{ねこ}の□算用
- ⑰ 魚心あれば□心 □羽の矢が立つ
- ⑱ □の知らせ □の邪鬼^{じやく}

問 次の文章で、AからCの結論を導き出すためには、根拠^{こんきょ}となるBが必要になります。Bの□に入る一文を十字程度で答えなさい。

- A 田中君は努力家だ。
- B □^⑱
- C 田中君は、きっと成功する。

問 次の文章はAとBからCの結論を導き出していますが、Cはおかしな結論になっています。なぜおかしいと言えるのですか、解答欄⑳に十字程度で説明しなさい。

- A 今朝、家を出てすぐに黒猫^{くろねこ}が目の前を横切った。
- B 先週、黒猫が目の前を横切った日に、学校で先生にしかられた。
- C 今日、先生にしかられたのは黒猫のせいだ。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文の一部を変えたところがあります。)(五十点)

現代は情報化社会と言われていて、A 私たちは毎日大量の情報に触れているかのように思っています。確かにインターネット上にある情報の量はすごい。その気になれば、何でもいくらでも調べられます。

しかし、意外にみんなそれほど情報を摂取していないというのが私の印象です。いつもスマホをいじっているのに、あれも知らない、これも知らない。「最近こういうニュースが話題だけ……」と話を振っても、「そのキーワードは聞いたことがあるんですが、どんな内容なんですか?」と聞かれてしまいます。どうやら、表面だけサーッとまでキーワードだけ拾っており、くわしいところまでは読んでいないようなのです。

「まとめサイトしか見ていない」という人もいます。知りたいことが簡単にまとめてあって、それでわかった気になる。わかった気になったけれど、聞かれると答えられない。間違つて読んでいたり、すぐに忘れてしまったりします。

インターネットの海と言いますが、①ほとんどの人は浅瀬で貝殻をとっているようなもの。深いところへもぐりにいく人はあまりいません。もぐれば、まだ見たことのない深海魚に出合えるかもしれないし、知らなかった世界が広がっているのに、です。同じ海を目の前にしても、やることは人によって違うわけです。

後ほどお話ししますが、読書は人に「深さ」をつくります。

この本でお伝えしたい「深さ」とは、一つのことをつき詰めただけの深さではありません。専門分野についてつき詰めていても、他がまったくダメというのではバランスを欠いています。深さは全人格的なもの、総合的なものです。

大学生が本を読まなくなった話をしましたが、実は大学の先生も教養のための幅広い読書をしなくなっている印象があります。私は大学の採用面接でこんな質問をしています。

「あなた自身の教養になった3冊を専門以外で教えていただけますか?」

専門以外というのがポイントで、幅広い教養のある人なのかを確認する質問です。

学生に対して教養を身につけさせるには、先生自身に教養がなければなりません。ところが、急に言葉に詰まってしまう人が多くなっています。「数え切れなくて言えません」というのならわかります。「3冊にしぼるのは難しいので、10冊言わせてください」くらい言ってほしい。でも、残念ながら「専門ならすぐ言えるのですけど……」という人が増えているのです。

専門分野は当然くわしいのですが、②そのバックグラウンド(背景)として一般教養があるべきだと私は思っています。哲学なしに科学をやるとか、文学的なものを知らずに経済学をやるとするのは危険なことです。だから大学1年生には教養課程があります。

それがリベラルアーツというものです。

リベラルアーツの概念は古代ギリシャで生まれました。「自由になるための全人的技芸」という教育原理が起源です。人間が偏見や習慣をふくめた呪縛から解放され、自分の意思で生きていくために、幅広く実践的な知識が必要とされたのです。

その後中世ヨーロッパに受け継がれ、「文法・論理・修辞・算術・幾何・天文・音楽」という「自由七科」として定義づけられました。そして、これがのちに神学・医学・法律といった専門教育ができたときに、それより前に学ぶべきものとなったのです。

現代のリベラルアーツはその流れをくみながら、近代に発達した経済学や自然科学などがふくめられてB幅広くなっています。近年リベラルアーツが重要視されるようになっていますが、*グローバル化が進み、社会問題が複雑化する中で、問題解決には専門分野を超えた柔軟性が重要だと強く認識されているからでしょう。専門分野の知識が豊富にあっても、その知識を生かすうえでは多角的な視点が必要なければ難しい。たとえば遺伝子工学を学んで、aソウサの技術がわかったとしても、生命倫理とどう折り合いをつけるべきかという難しい問題に対処していくには歴史や宗教、哲学など幅広い知識が必要とされます。

ですから、ますます教養が重要とされている時代なのに、本を読んでいないというおかしなことが起こっているのです。③いま、AI(人工知能)に関心が集まっています。

2017年、AIが囲碁で世界トップ棋士に勝利したというニュースがありました。囲碁は将棋やチェスに比べて盤が広くて手順が長く、場面によって石の価値が変わるといふ特徴があります。チェスなら可能だった、「すべての手を覚え、計算して最適解を出す」というやり方が通用しづらいつのようです。だから囲碁では、コンピューターが人間に勝つのはまだ先だと思われていました。

ところが、2017年10月に発表されたグーグル傘下の*ディープマインドによる「アルファゼロ」は、お手本となる先人の棋譜データすら使わず、ひたすら自己学習により強くなっているとのことでした。しかも、囲碁だけでなく他のゲームもできます。C人間の手をはなれて、コンピューターが自分で学習・成長しているのです。

このようにすさまじいスピードで進化しているAI。この分野の権威であるレイ・カーツワイルは2045年にシンギュラリティ(技術的特異点)に到達すると言っています。人工知能が人間の脳を超え、世界が大きく変化するというのです。

AIに仕事をうばわれないためには何を身につけておくべきか、AIにできないことをできるようにしておくためにはどうすればいいのかといった議論もさかんです。

しかし私に言わせればそれは*ナンセンスです。「AIにできないこと」を予測したって簡単にくつがえるでしょう。現在の進化のスピードを見ても、普通の人間の想像をはるかに超える変化が起こるはずです。そこで「AIにできることは学ばなくていい、AIにできないことだけ一生懸命学ぶ」という考えはリスクにはなりこそすれ、人生を豊かにしてはくれません。

AIに負けないことを目的にすえて生きるなんて本末転倒です。それこそAIに人生を明けわたしてしまったようなものです。AIが出てこようが出てこなかるうが、「自分の人生をいかに深く生きるか」が重要なのではないのでしょうか。

人生を深めるために、AIや未来予測についての本を読むのはとても有意義だと思います。D「人間の脳を超えた知性を持つAIがいる場合、人間らしいやりとりをすることだって簡単だろう。それでは何が人間を人間たらしめるのだろうか？ 自分は人間に何を求めているだろうか？」などと本を片手に思考を深めていくことで、人生を豊かにしていくことはできるはずですよ。

私たち人類は「ホモ・サピエンス」知的な人」です。

知を多くの人と共有し、bコウセイにも伝えていくことができるのがホモ・サピエンスのすごいところですよ。書店や図書館に行けば、古今東西の知が所せましと並んでいます。偉大な人が人生をかけて真理を探究し、E身をけずって文学の形に*昇華させ、それを本の形にして誰でも読めるようにしている。だから知を進化させていくことができます。

家族や友達とおしゃべりするだけなら、サルも犬もやっています。アリだってやっていますでしょう（声を出してのおしゃべりではないかもしれませんが、さまざまなコミュニケーションはとっています）。でも、動物や虫たちはcチイキや時代を超えたところにいたものたちが、何を考えていたかを知ることができません。

本を読まないのは、④ホモ・サピエンスとしての誇りを失った状態。

集中力もさらに低下して、いよいよ⑤「本を読まない」ではなく「読めない」ようになってしまったら、人類の未来は明るくないのではないかとすら思えてきます。

くり返しますが、ネット、SNSが悪いと言っているわけではありません。

このすばらしいツールも人類の知が生み出したもの。うまく活用しない手はないでしょう。ただ、軸足を完全にそちらに移してしまって、読書の喜びを忘れてしまうのはあまりにももったいない。読書は人間に生まれたからこそ味わえる喜びです。自分で自分の人生を深めていく最高のものです。⑥ネット、SNS全盛の現代だからこそ、あらためて本と向き合うことが重要だと思ふのです。

(齋藤孝『読書する人だけがたどり着ける場所』SB新書による)

*注 グローバル世界規模の。ディープマインドGoogleの子会社名。ナンセンス無意味なこと。昇華物事がより高い段階に高められること。

問一 a c のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A E に入る言葉として適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉を二度以上使ってははいけません。

ア もはや イ たとえば ウ さらに エ あるいは オ あたかも カ まったく

問三 — 線部①に「浅瀬で貝殻をとっている」とありますが、これは人々のどのような様子を言っていますか、説明しなさい。

問四 — 線部②とありますが、筆者は「一般教養」を身につけることに、どのような意義があると考えていますか、説明しなさい。

問五 — 線部③とありますが、この本文において「AI」を話題として取り上げている筆者の意図の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア AIが人間の能力を超えてしまうことを素直に認め、人間が得意な分野はAIにまかせることで、人間は自らと向き合うべきだということを示すため。

イ AIが人間をおびやかす存在であることに不安を感じる必要はなく、AIには負けない人間らしさがあることを自覚するべきだということを示すため。

ウ 人間とAIを比べ優劣を競うことばかりに注目がちだが、AIを通して人間という存在について深く考察することが重要であるということを示すため。

エ 人間の能力を超えた知的存在であるAIの研究を通じ、テクノロジー自体も発展するので、人間の生活が今まで以上に便利になるということを示すため。

オ 現代社会におけるAIやネット・SNSの普及に関して、人間が理想とする幸せな人生を送るためには、AIにたよってはいけないということを示すため。

問六 ——線部④とありますが、どういうことを「誇り」としていますか、説明しなさい。

問七 ——線部⑤とありますが、「本を読まない」「ことと「読めない」こととの違いを、わかりやすく説明しなさい。

問八 ——線部⑥とありますが、筆者が「本と向き合うことが重要だと思う」のはなぜですか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本と向き合うことで、幅広い知識を吸収し現代社会で必要とされる多様な見方を得るだけでなく、自らについて考えを深め、科学が進歩していく中でも、人としていかに生きるかを考えられるから。

イ 本と向き合うことで、グローバルな社会の中で生き残る力としての専門的な知識を習得できるだけでなく、AIに対抗できる高度な技術を手に入れられ、AIに対する劣等感を克服できるから。

ウ 本と向き合うことで、情報化社会の中で正しい情報を取捨選択できる実践的な方法を身に付けるだけでなく、古今東西のあらゆる知識に触れ、自らの人生をさらに豊かにすることができるから。

エ 本と向き合うことで、AIやインターネット・SNSから離れて集中力を養うことができるだけでなく、昔の人たちが探究してきた真理を学ぶことになり、本来あるべき人間へと成長できるから。

オ 本と向き合うことで、専門的な知識だけでなくそれを有効に活用できる技術を磨き、その経験を用いて全人類の進歩に貢献することによって、自らの生きる意味を手に入れることができるから。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(五十点)

中学生の「おれ(森野護)」と「平石徹子」は幼稚園から一緒の幼なじみの関係にある。「徹子」は、たいていの場合落ち着いておとなしく、きまじめな優等生だが、ときどき思いもよらない行動をとることから、周囲から「変な人」と思われている。そんな「徹子」のことを、「おれ」は「ワケわかんなくておもしろい」人間だと思っていた。ある日、外見や身なりを気にしない「徹子」を遠回しに馬鹿にする女子がいた。

「ねーねー、その髪の毛、どこでカットしてるのー？」とわざわざたずねては、「自分で切ってるよ」という返事を引き出して、「うそーっ」とみんなでどつと笑う。何でも、前髪だけじゃなくてサイドと後ろ側も自分で切っているそうなのだが、いったいどうやるのかと聞かれ(これはおれも疑問に思った)、「え、このまま切っちゃってるよ」と二つ結びにした髪の毛をパタパタやってみんなを「ゼック」させていた。要するに、いつもの二つ結びにしたままの状態、ハサミでバツツリと切っていた、というわけだ。道理で毛先がいつもハケみたいに真っ平らだったわけだよ。まあおれも大概、「ファッション? なにそれおいしいの?」ってな人間だけさ。徹子は一応、曲がりなりに女子だろう? もうちよつと、何とかしようよ……とはやっぱり当人には言いにくい。やきもきしているところへ、別のところではかの女子が、徹子の制服のスカートがしみだらけだとあきれいている声も、聞こえてきてしまった。

まずい、これは何とかしないとイケない……そんな義務感だか、義憤だかにつき動かされ、おれは少しばかり情報を集めてみた。その主な情報源は自分の母親だったけれど。オフクロは面倒見がいい質だし、徹子のことも直接知っているから、話が早くて助かった。「はんはんはーん、ほっほー」なんて「ヨケイ」な合いの手を入れまくるのが、若干気にさわったけれど。

とにかくこの耳寄りなお得情報を、ぜひとも徹子にしらせてやらなきゃと思ったけれど、学校だとほかのやつやつの耳に入ってしまうかもしれない。特に一部の性格の悪い女子達に聞かれたら、①色んなことが裏目に出してしまう。だから部活がない日の下校時、さりげなく徹子の後をついていくことにした。どうせ家は近所だし、そのうち声をかけるチャンスもあるだろう……そう思いながら、尾行していった。

途中で、あれ、と首をかしげる。徹子が向かっている方向は、自宅への最短ルートを微妙に外れていた。なんだか声をかけそびれるままに歩いていくと、徹子が目指しているのが近くの河原だと気づいた。土手の上は遊歩道になっている。どこかの学校の部活の連中がランニングしてたり、大人や子供が犬を散歩させたりしている、そんな場所だ。

土手の階段を上っていく徹子を見上げていたら、ドンピシャなタイミングで風がふき、ちらりとパンツが見えた。遠目で一瞬だったけれども、まるで小学生がはくみたいなサンリオキャラのパンツで、別に得したような気分にはならなかった。まあ、徹子だし。見ようと思って見たわけじゃないし、見たかったわけでもないし。それにくだいようだけだ徹子だし。

少し時間をおいておれも土手に上がる。見回すと、徹子は川岸に下りていて、平たい石の上に無造作に腰を下ろしていた。ああいうことを平気でするから、制服のスカートがよこれるんだよと、まるでオカンのようなことを思う。

ゴロゴロした石ばつかりの河原で、徹子は何をするでもなく、ただぼんやりと水面をながめていた。ときおり手近な石を手にしては、川の流れにポチャンと投げ落としている。何だよ、さびしいやつだな、何かいやなことあったのかな、ああそうか、女連中の悪口が聞こえていた

んだなと思ひ、それならおれの情報で即解決だぜと思つたけれども、どうにも声をかけにくい。「やあ、偶然だな」とやるには、通学路から外れすぎていて、白々しさがぬぐえない。

果たしてそんなものがあるかどうかあやしい「スマートかつ、さり気ない声がけ」のセリフについて、おれがない知恵をしぼっている間にも、小石はポチャン、ポチャンと川底にしずんでいく。

なぜだろう。その後ろ姿が、やっばりとてもさびしそうに見えた。

ふと、大昔のことを思い出す。

小学一年だったか、二年だったか。下校途中で交通事故にあつたことがあつた。幸い、けがは命に関わるようなものじゃなく、車を運転していたおじさんは、真つ青になつて近くの病院に連れて行ってくれた。親もすぐに呼んでくれ、必死であやまつていたから、すぐくちゃんとした人だったのだろう。あまりのあやまりように恐縮したのか、オフクロなんて「まーた、うちの馬鹿息子が、ふらふら遊び歩きをしたんでしょー」と豪快に笑い飛ばしていた。実際、そのころ自分内ではやってた〈逆さ歩き〉(要は進行方向とは逆向きで歩くというアホ行為)をしていて最中の事故だったから、おれにも非は大いであつたのだ。

とにかくおれは右脚を骨折して、人生初入院をすることになつた。入院といつても、ひよつとして頭を打つたらいけないから、一応検査してみましよう、でもまあこの様子なら、心配いらなんでしょうね、みたいな軽いノリだった。身内は「だからいつとも言つたでしょー、いつかこうなるんじゃないかと思つてたわ。大体あんたはいつとも……」(以下略・オフクロ)、「次は気をつけるんだぞー。ついでに頭をみてもらうつて? ちょうど良かった、この際、悪いとこ全部治してもらえ」(オヤジ)てな調子で、一番ちゃんと心配してくれたのは加害者のおじさんだった。おれとしては、脚は痛いわやかましいわで、大人達がそろつてぞろぞろ帰つていったときには心底ほつとした。

とは言え、とにかく退屈だった。早すぎる夕ご飯を食べてしまったら、もう何もすることがない。一泊入院の予定だったから、漫画もゲームも持ちこんでいない。ソナえつけのテレビは、「テレビカード高すぎ。どうせ明日退院するんだし、いらないわよね」とオフクロが断言したから見られない。といつて今は、あちこち歩き回ることもできない。人生初ギプスで、右脚は宙づり状態だ。病室は四人部屋だけど、その日はたまたまおれ一人で、だれかと話すこともできない。

こうなりやもう、寝るしかねーな。

そうあきらめて目を閉じた。

その直後だったのか、それとも少しは寝たのか、よくわからない。顔の上に、ぼとつ、ぼとつと、何かが落ちてきた。うえつ、何だと思ひ、正直言つて少しこわかつたので、できる限りうつすらと目を開けた。極限の薄目状態の視界に映つたのは、びっくりしたことに徹子だった。小学校の、一年か、二年のころである。しかも何時かわからないけど、夜である。ほかに人の気配はない。夜の病院に、小さな女の子が一人でやつてきた? まさか。しかもそれが徹子で、どうやら泣いている……明らかに、ぼろっぼろつとなみだをこぼしている。

え、なに? どうしたの? 何で泣いてるの? 何で泣いてるの? え、え、もしかして、おれのせい?

頭の中は完全なパニック状態だ。車にひかれた直後だつて、ここまで動転していなかつたと思う。

え、何か泣かすようなこと、したっけ?

心当たりはなかつた。そもそもそのころは、あんまりしゃべつたりとかもしていなかつたし。

なぜかそのときは、おれを心配して来てくれたんだとは、かけらも思わなかつた。直接相手に、「びっくりした。どうしたの? 」と聞けば良さそうなものだったのだが、なまじ寝たふりみたいなのをしてしまったせいで、目を開けるタイミングがつかめない。しかも泣いている徹子相手に、何か言えるような気もしない。

おれは逆にぎゅつと目を閉じて、この場をやり過ごすことにした。混乱したあまりの現実逃避である。しばらくして、徹子は家に帰る気になつたらしく、運動靴が床をこする音がした。病室を出る前に立ち止まり、小声で何かつぶやいたようだった。

『ごめんね、マモル』と言つたように聞こえた。

人の気配が完全に消えて、おれはおそろおそろ目を開く。病室にはもちろんだれもない。もしかして夢だったかとも思ったが、おれのほつぺたは、徹子のなみだでまだしめつていた……。

——どうして今、そんな古いことを思い出したりしたんだろう?

ポチャン、ポチャンと、水音は続いている。

どうしてだろう? 川面に向かって石を投げこんでいる徹子が、あのときみたいに泣いているんじゃないかって思ってしまうのは。

埒が明かないので、おれは周囲の手ごろな石を集め、そのうちの一つを川に向かって投げてみた。徹子のようにただ投げ落とすんじゃないかと、手首にスナップを利かせる感じ。

水面で、石が一度だけ跳ねて、しずんだ。

徹子がふり向いて、びっくりしたようにおれを見ている。

あ、良かった、別に泣いてないじゃん……いや別に、泣く理由もないけどさ。

ほつとしながら、② 急いで言つた。

「あれ？ 徹子じゃん。なんでこんなとこにいるんだよ」

こういうのは、先に言ったもん勝ちだ。そっちこそなんでここにと言われる前に、また早口で言う。

「あのさ、オフクロから聞いたんだけどさ、大通りの四丁目の角にさ、千円カットの美容院、あるじゃん？ あそこさ、第二と第三の水曜日
は、カット代、半額になるんだぜ？」

「え？」

徹子の顔は、〈びっくり〉のまんまで、もともと大きめの目がさらに見開かれている。

「なんと五百円！ 今度行ってきなよ。自分で切るよりだいぶ……」ここでおれはちよつと言葉にまよう。マシになる、だと今がひどいみた
いに聞こえるかもしれない。「だいぶ、かわいくなるよ、きつと」

瞬間、徹子の顔が目に見えて赤くなり、しまった、言葉のチョイスをしくじったと思う。けどまあ仕方がない。言っちゃったことは、出
てしまったオナラと同じく引っこめることなんてできないんだから（たとえどんなにくさかろうとも、だ）、おれはさつさとお得情報その二
を伝えることにした。

「あとき、近くの公園の側のクリーニング屋、あるだろ？ あそこ、たのめば追加料金ナシでけつこう早く仕上げしてくれるんだぜ。その制服
も、金曜日に出せば、日曜日には受け取れるってさ」

徹子にはぎっていた小石をぼとりと落とした。その顔は、また少し赤くなっている。

「あ、これ……」と自分のスカートをひぎのあたりでつまみ上げて言う。「*とわろ徹が、バツイ手ですぐだきついてきたりするんだよねー。カ
ーテンとか、人のスカートとかで、ベトベトよごれをふいたりするし、食べ物のみみて、落ちないんだよね、もう困ったもんだよー」

③ スカートを無意味にパタパタとはたきながら、へらつと笑う。その笑った顔のまま、徹子は続けた。

「ねえ、護。私、キタナイ？ オカシイ？ 変な子？」

どれも一部の女子が、徹子を馬鹿にするときに使っていた言葉だ。

やっぱりにしてんのなーと思いつつ、おれは仁王立ちのまま言った。

「だから大丈夫だつて」

おれのお得情報ですべて解決だ、とほくそえみつつ、Vサインをしてやる。

④ 徹子はくしゃくしゃつと、不細工に笑った。それからふいに、わざとらしいほどはしゃいだ声を上げて言う。

「ねえねえ、さつきの、もう一度やってみて？ 私あれ、できないんだ。石を水の上で跳ねさせるやつ」

「ああ、あれね。本気出したらもつと跳ねるよ」

ひゅつと投げてやったら、とんとんとんと三度跳ねた。徹子も投げてみるが、すぐ近くの水面にぱしゃんと落ちただけだった。

「コツがあるんだよ。なるべく平たい石でさ、こうやって……」ともう一度投げたら、一度しか跳ねなかった。チクシヨ、チクシヨと再挑戦
するうちに、石は奇跡きせきみたいにととと……と五回も跳ねた。

「わあ、すごいすごい」徹子は子供みたいに手をたたいて喜んだ。「やっぱり投げるの、すごく上手だね」

「いやあ、それほどもあるんだけどね」

わざとおどけて、笑いを取るつもりで言ったのに、それほど受けなかった。逆に妙みょうにしみじみとした口調で言う。

「あの石はさ、きつとびっくりしてるね。いきなり景色がどんどん変わって、きつと未来に連れてこられたみたいに思ってるんじゃないか
な」

なんじゃそりやと思う。こいつは時々こうして、コメントに困るようなことを言う。

「別に石コロは何とも思っていないと思うよ」

⑤ 少しだけ素っ気なく言って、おれはくると土手側に向き直った。こうやって川っぺりで二人きりで語らうとかさ、まるで彼氏彼女みたい
じゃん、と気づいて、ふいに落ち着かなくなってきたのだ。それはだんじて事実じゃないわけだから、おれはもう、さつさと退散するべきな
のだ。* ミッションは無事、クリアしたわけだし。だってこのままだと、一緒に帰ろうとか、それこそ彼氏彼女みたいなことになっちゃうじ
ゃん。家、近所だし。

それでおれは、早口で「そんじゃな。おれ、もう帰るわ」と背中むしろに告げて、さつさと歩き出した。

「……どうも、ありがとね、護」

ぽつりと声をかけられて、うれしくなる。

おれはふり返らずにだまって片手を挙げた。このポーズが徹子からカッコ良く見えてるといいなと思いつつ、
ありがとうつていうのは、すごくいい言葉だよなとしみじみ思った。

⑥ 大昔、入院してたときの「ごめんね」みたいな、あんなわけのわかんない言葉より、こつちの方がずつといい。

(加納朋子『いつかの岸辺に跳ねていく』幻冬舎)

*注 義憤ぎふん＝正義から外れたことに対するいかり。

徹とわろ＝「徹子」の弟。まだ幼い。

ミッション＝使命。

問一 — 〇 a 〇 c のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 — 線部①とありますが、「おれ」にとつて「裏目に出てしまう」とはどういうことですか、説明しなさい。

問三 — 線部②とありますが、「おれ」がこのような行動をとつたのはなぜですか、説明しなさい。

問四 — 線部③の「へらつと笑う」と、——線部④の「くしゃくしゃつと、不細工に笑った」における「徹子」の気持ちの違いを説明しなさい。

問五 — 線部⑤とありますが、このときの「おれ」の気持ちを説明したものととして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二人で石投げに夢中になっていたが、「おれ」がおどけて言った言葉を「徹子」が笑ってくれないことに傷つき、またもやわけの分からない発言をする「徹子」にいらだちながら、このままでは自分たちが周囲から恋人同士のように見えてしまうことに気づき、この不本意な状況をさつさと終わらせたいと思った。

イ 二人で石投げに夢中になっていたが、「おれ」がおどけて言った言葉を「徹子」が笑ってくれなくて、自分の期待が外れてしまい、「徹子」のよく分からない発言にとまどううちに、自分たちが周囲から恋人同士のように見えるのではないかということに気づき、あわててそう見える状況をなくしたいと思いついた。

ウ 二人で石投げに夢中になっていたが、「おれ」がおどけて言った言葉を「徹子」が笑わなかったことに違和感を覚え、思いがけない発言をする「徹子」の気持ちも気になったものの、何も言い返せない自分に対するいらだちや、恋人同士に見えてしまうことへの恥ずかしさから、ここから早く逃げたいと思った。

エ 二人で石投げに夢中になっていたが、「おれ」がおどけて言った言葉を「徹子」が笑わなかったことや、つかみどころのない発言を続ける「徹子」の様子を見て、「徹子」の心にある傷の深さにおどろき、もつとはげまされたいと思ったものの、周囲からは恋人のように見えてしまうことに対して恥ずかしさを覚えた。

オ 二人で石投げに夢中になっていたが、「おれ」がおどけて言った言葉を「徹子」が笑わないことにさびしさを感じ、自分が「徹子」に好意を抱いていることに気づいたものの、不思議な発言をする「徹子」を好きな自分を認められず、周囲からは恋人同士に見えてしまう今の状況を照れくさく感じるようになった。

問六 — 線部⑥について、先生と生徒AとCが次のように会話しました。会話文と資料Ⅰ・Ⅱを読み、後の問いに答えなさい。

生徒A 先生。小学生の「おれ」が事故にあったとき、なぜ「徹子」は病院で「おれ」に「ごめんね」と言ったのですか。

生徒B 小学生のころの「おれ」も、徹子が「ごめんね」と言った理由を分かっていますませんでしたよね。

生徒C 「徹子」の「ごめんね」の意味って何だったんでしょうね。

先生 では、「徹子」の「ごめんね」について考えるために、この文章の続きのシーン（資料Ⅰ・Ⅱ）を読んでみましょう。

資料Ⅰ

護は活発で明るくて、けどとてもおだやかでやさしい。だからいつも、男子の友達に囲まれていた。体格も運動神経も良く、どんなスポーツをしても上手にこなしていた。

小学校に上がる直前のことだ。

母は産院の定期検診に行くために、私（平石徹子）を護の家に預けていった。幼稚園までは、おたがいそういうこともよくあったのだ。森野家のテレビでは、野球の試合が映し出されていて、護は画面にくぎ付けだった。

「スゲー、カッケー」と大はしゃぎで、私まで楽しくなって「ほんとだね」とうなずく。すると護は、秘密を打ち明けるような顔で、けれどそれにしてはだいぶ大声で宣言した。

「オレ、学校行ったら野球やるしー」

彼が鼻息もあらくそう言い切った瞬間、私はまたあの世界に入っていた。それまでと異なり、まるで水面を跳ねる石のように、とどとど……といくつかの場面が広がっては、閉じていく。

小学校で、上級生に交じって野球の試合に出ている護。みんながやりたがらないキャッチャーを、率先して引き受けた護。中学で、大きな大会で勝ち進んでいるチームの中の、護。そして今まさにテレビで見たその場所で、ピッチャーの球を受け止めている護……。強くて大きくて、堂々とした護。

「オレも絶対、甲子園行くしー」

テンション高く言い放つ護にはと我に返り、私は大ききうなずき返した。

「うん、行くよ、ほんとに行くよ。すごいねー、護は。かっこいいね。絶対、応援に行くね」

護の高揚感が伝染したように、私も声はずませた。護はひどくうれしげに、顔をくしゃつとさせて笑った。

本当に、なんてすごいんだろう。あんな大きな舞台で、テレビに映って、たくさんの人に応援されて。ちゃんと、夢をかなえて。

自分と同じ、こんな子供の頃から、きちんと未来への第一歩をふみ出しているんだ……。
護の一番古い友達であることが、心底ほこらしくうれしかった。

資料Ⅱ

——未来は、変化する。

それが、この最悪の出来事から学んだ事実である。

それはひどくおそろしい発見だった。

それまでは、見えていたにもかかわらず、母や友達が小さなけがをしたりして、何もできなかったことを申し訳なく思ったりしていた。わかっていたのに防げなかったことが、後ろめたかった。

けれど……。

本当は何かができる、というのは、一見希望のようでもある。悪いことが回避できるなら、もちろんそれに越したことはない。

しかし実感としては、恐怖でしかなかった。見えてしまったがために、自分がなした行動のせいで、誰かの運命を変えてしまうかもしれないのだから……すでに護に対して、そうしてしまったように。

この先、どうしていいかわからない。護のことだって、具体的にどうすれば償ったことになるのかわからない。

できることなら、目をふさぐように、先のことなんて見えなくなりたい。何ひとつ知らないままでもいい。

なのに未来は音のように、においのように、私の頭の中に、* 抗いようもなくすべりこんでくる。それを防ぐ術が、私にはない。

ひとつだけ、心に決めたことがあった。

——もし次に、自分の身に* 厄災が降りかかることを、あらかじめ知ることができたとしても。

私はあまんじて、それを受け止めよう、と。護のときのようなことは、二度とごめんだった。

*注 抗いようもなくさからうこともできず。

厄災＝災難や災いのこと。

生徒C おどろいた。「徹子」って、(あ) という特別な力を持っている女の子だったの？

生徒A そうみたいね。「おれ」が川に向かって石を投げるシーンでの「徹子」の発言の意味も分かったけれど、それが「ごめんね」という発言と、どう関わるの？

先生 それぞれの資料の内容をふまえて、状況を整理してみたらどうでしょうか。

生徒B 分かりました。資料Ⅰによると「徹子」は自分の特別な力によって「おれ」が(い)と知っていたことが分かるね。

生徒C うん。もう一つ、資料Ⅰからは、「徹子」がそのことを心の底から応援していたことや、「徹子」が(う)ことが分かるよ。じゃあ、次は資料Ⅱだね。

生徒A 資料Ⅱを読んで気づいたんだけど、「この最悪の出来事」とは、「おれ」に関するものなのよね。そうだとすると、これは、「おれ」が事故にあったことを指すんじゃないのかしら。

生徒B 仲の良い幼なじみが事故にあったんだから、「徹子」が「最悪」と表現するのは、当たり前なんじゃないの？

生徒C でも、このあとには「見えてしまったがために、自分がなした行動のせいで、誰かの運命を変えてしまうかもしれないのだから……すでに護に対して、そうしてしまったように。」と書いてあるよ。資料Ⅰで整理した内容も一緒に考えてみてよ。

生徒A つまり、「徹子」が小学生の頃、病院で「おれ」に言った「ごめんね」という言葉は、自分の行動のせいで(え)という気持ちを表したものだということよね。

生徒C その通りだね。

生徒B なるほど……。『ごめんね』と「徹子」が言った理由が分かってきたよ。

(1) (あ)に当てはまる、「徹子」の特別な力を五字程度で答えなさい。

(2) (い)に当てはまる、「徹子」が特別な力によって知っていたことを、十字以内で答えなさい。

(3) (う)に当てはまる最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「おれ」を大切に思い、彼が自分の初恋の相手であると思っていた

イ 「おれ」をまだ見ぬ弟のような存在としてとても大切に考えていた

ウ 「おれ」のことを、幼なじみ以上のあこがれの存在だと思っていた

エ 「おれ」と昔からの友人であることが、自分の支えだと感じていた

オ 「おれ」のことを、幼なじみの友達としてとても大切に思っていた

(4) (え)について、『ごめんね』と発言した「徹子」の気持ちを、「自分の行動のせいで」に続ける形で、五十字以内で説明しなさい。

国語 解答用紙 (その一)

一

②①	②②	②③	②④	②⑤	②⑥	②⑦	②⑧	②⑨
		A	A	A				
		①⑥	①③	①⑩	①⑤			
		①⑦	①④	①⑪	①⑥	B	B	B
		①⑧			①⑦			
					①⑧			

二

問一

a
b
c

問二

A
B
C
D
E

問三

得点

受験番号

問四

問五

--

問六

問七

問八

--

